

# どんびま

2013年7月11日発行  
発行者 椛の湖農業小学校

## お盆

上野では節句などは旧暦で催すことが多いが、お盆は新暦の7月に執り行う。

坂下も上野も昔は苗木藩の領地で、苗木藩は明治(新)政府の神仏分離令を曲解したかのような徹底的な廃仏毀釈(ハイブツキシャクつまり仏教を廃絶すること)をした。

改宗した神道にはお盆はない。しかし、昔に習ってお盆をする。我が家では13日に迎え火を焚き、土蔵の二階の奥に隠してある古い位牌を出してきて、神式の新しい位牌と一緒に祀る。15日の夜できるだけ遅めに焚く送り火まで、朝昼晩のお供えにも決まり事がある。先祖の霊を送り出すと、仏式の位牌は祠にみせた隠し場所に戻す。

亡き母の好きだったナツツバキが咲いて、今年は異常な暑さが続いている。(草)



## 7月授業日のご案内

●日程 7月21日(日)

受付 9:00~9:30  
 始めの会 9:30~9:40  
 授業(畑仕事) 9:40~11:00  
 火をおこして炊飯 11:00~12:00  
 昼食 カレーライス、サラダなど 12:00~  
 昼休み カブトムシの運動会  
 キャンプの相談・かかし作り 13:00~  
 終わりの会 15:00~15:15

●服装 作業のできる服装  
 ●持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具  
 買い物袋、箸、食器、スプーン  
 かかしの材料  
 カブトムシ

●締め切り 7月16日(厳守)

☆カブトムシは育てていますか。成虫になっていたら、持ってきて下さい。

☆かかし作りは家族で1体作ります。7月・8月に完成させて、8月に皆で投票する「かかしコンクール」をした後、田んぼの側に並べて立てます。骨組み(3cm角材の十字架型と胴体にするワラ)はこちらで準備しますので、頭部、帽子、着物などは各自で準備、工夫して下さい。

☆キャンプの相談 大人は食事・もの作り・遊びの三つの係に分かれて相談します。

(その間に)生徒さんはキャンプファイヤーでのグループの出し物を相談してもらいます。それぞれ、楽しい案を考えて来て下さい。

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

## 手揉みの日本茶を作りました

例年 6 月の授業日は梅雨の時期のため、雨に濡れた茶葉を摘みましたが、今年は朝から晴天に恵まれましたが、それでも少しは雷雲にせかされました。今年の梅雨はかつて無い程変則的であり、特に農家にとっては農作物の、作付けや手入れに苦慮しているようです。水不足は農家にとって致命的な現象です。

- 1 午前の授業。** さつまいも、枝豆、落花生の苗の植え付けと、大豆の種を蒔きました。さつまいもは 10 月に焼き芋となります。枝豆は 10 月に収穫してお父さん達のピールのつまみとなって、それぞれ楽しめます。収穫は大根とサニーレタスを各自 1 本ずつ抜き取りました。
- 2 昼食。** ほうば寿司、かき玉汁、玉ねぎサラダ、キャベツの温野菜サラダ、レタス大根のサラダ、白かぶの浅漬け。  
スタッフにより前々日から高い木に登りホウ葉を取ったり、前日から乗せ具の準備をして頂き、当日はお母さん達にも手伝ってもらいながら、沢山のホウバ寿司が出来あがりしました。ホウバ寿司は当地方でのご馳走郷土食であり、何処の家庭でもこの時期必ずと云って良いほど作られています。  
寿司ご飯の上には各自好みの具を乗せて楽しめます。また朴の木の葉には殺菌作用があり、この時期の携帯食としても利用されています。
- 3 午後の授業。** 恒例の茶摘みを行いました。先端の芯葉以下 3 枚を指先で摘み取りましたが、初めての人には戸惑いがあったようでした。そのあとは手揉み茶体験として、摘み取った茶葉を集め、蒸した物を筵（むしろ）の上で、各グループごとに手揉みしました。揉み上がった茶葉を乾燥しましたが、天気が心配になり途中で切り上げ、各自に持ち帰って乾燥して頂くことになりました。タンニンが手に浸みて黒くなり驚いたことでしょう！
- 4 持ち帰り。** 大根 2 本（内 1 本はアボ兄提供）、はくさい、サニーレタス。  
さすがアボニイのは立派な大根でした。これが有名なアボ兄いのはらフキ（法螺吹き）大根と云われているものです。是非生で食べてみてください。
- 5 連絡事項。** 7 月は大好評の案山子作りがあります。アイデアを生かした材料を準備してきて下さい。十字木部と藁は用意いたします。

～とくちゃんのちょっと一言～

子供の頃には 6 月になると、自家用のお茶揉みを手伝わされました。昼間に母親達が摘んで来た茶葉を蒸しあげ、夜に筵（むしろ）の上で力を込めてせっせと揉みました。一年分の量を確保するには何日もかかります。茶葉のアクで真っ黒になった手で学校に行きました。近年ではお茶はボトル入りが多くなっていますが、テレビ番組の中で茶葉の他に木部も煮出していると云っていました。

手揉みのお茶は香りも味も良いはずです。本物の味を忘れないようにしたいものです。

～あぼ兄の百姓ばなし～

## 「お茶で一服」

椈の湖農業小学校、6月の授業は茶摘みだった。本来茶摘みは5月に新芽を摘むものだが、農小では都合で二番茶摘みをやってきた。旧の場所では、近くの茶業組合の畑で摘ませてもらったが、今の場所へ来てからは、施設の周りの垣根の茶の木で摘むことにしてきたが、急な斜面の上で足場が悪く難儀である。摘んだ茶葉を寄せて、蒸して揉んで、乾燥する。お天気が見る見る悪くなったので仕上げまでの乾燥ができなかった。

あぼ兄の小学生の頃は、製茶工場はなく、茶摘みから製茶加工まで各家庭でやっていた。茶の木は畑でなく、家の垣根、隣家との境、田畑の畦畔あるいは畑などの土が流れないように防止するために植えられていた。茶摘みや管理には条件の悪い所もあったが、それぞれ1年分のお茶はなんとか確保していた。5月の一番茶の時期になると、昼間摘み取った茶葉を、夜には家族総出で茶揉みをした。もちろん子どももその一員で、アクで黒くなった手のまま学校へ行ったことを思い出す。

今は茶の木は畑で栽培され、茶葉の加工は製茶工場にゆだねる。だが、加工料も高くなり自家製のお茶はだんだん少なくなっている。お茶の消費量も減少していたが、ペットボトルのお茶の登場で改善した。いたるところに自販機があり、便利になるのと引き換えに大事なことをこぼして歩いているように思える。

少し立ち止まって考えてみると、日本には古い時代から「茶道」という日本特有の伝統文化があった。昨今は茶会や野立などもあまり見なくなってしまった。お茶を立てる、お茶を入れるという言葉さえも遠くなっているという。

こんな話がある。ある保育園で「うちのお母さんは家でお茶を作ったことがない」と言った若い母親に聞いてみるとペットボトルのお茶しか飲んだことがないのだ。「お茶を入れる」という言葉すら失われている。又、料理教室で急須を見て「これは何？」と尋ねた受講生がいたという。お茶の入れ方を知らない若者が増えているという。ある高校の家庭科でのアンケートでは、家でお茶を飲むのは2割だった。急須を直接火にかけようとした生徒もあったという。

田舎では10時と3時は決まってお茶の時間である。鉄瓶まではないにしろ、各家庭にはそれなりのお茶の道具が揃っている。中でも茶わんはお茶の楽しみを演出するものだが、自作の茶わんは、なお楽しい。30年ほど前、あぼ兄たちはフィールドフォークという手作り活動をやった。あぼ兄の山の雑木林の中に「雑市楽座」という工房を建てた。木工用と陶器用のろくろや陶器用のガス窯を置いて、生活に使うものを作って楽しんだ。中でも人気のあったのは茶わんだった。少し重いが愛用し、今でも残っている。

眠気を覚ましてくれる、神経を刺激し脳の働きを促すなど、お茶の効能は古くから知られているが、三重県亀山市では、朝、昼、夜に最適なお茶をセットで売り出している。朝の「めざまのお茶」はカフェインの多い煎茶、休憩時間用の「三時のお茶」には甘味があり落ち着く玉露、寝る前に飲んでもらう「夜のお茶」はカフェインの少ないほうじ茶のセットである。他にもあるお茶の種類を知って楽しめば生活は豊かになる。

「お茶を入れるでよお、寄っていかっせんか!？」田舎のコミュニケーションの始まりである。お茶うけには季節の菓子や誰かの旅のお土産も良いが、時には自家製の漬物があれば最高である。特別声はかけなくても、座れば黙ってスーッとお茶が出るのが田舎の作法でもある。

生活の中で切り離せないお茶は、薄くなっていく人間関係にもつながっている。

急須で入れたお茶はその人の個性も出て、人と人のつながりを濃くしてくれるはずだ。

～かなちゃんの虫日記～

植物のくみや はは<sup>ら</sup>に 白いあわが<sup>ら</sup>  
ついて いるのを見かけたことはありませんか？

1cm くらいのかたまりです。

ただあわがついて いるだけでなく、  
その中には 虫が入っていますよ。

植物の汁をすって、おしこや 空気で  
あわを作<sup>つ</sup>って、その中<sup>なか</sup>にかくれています。

あわをふくので アワフキムシ<sup>し</sup>とい<sup>い</sup>ます。

あわの中<sup>なか</sup>に いるのは 蚊<sup>ぶん</sup>虫<sup>ちゅう</sup>です。

あわは、乾燥<sup>かんそ</sup> や 敵<sup>てき</sup>から 蚊<sup>ぶん</sup>虫<sup>ちゅう</sup>を 守<sup>まも</sup>ります。

成虫<sup>せいちゅう</sup>になると はねが できます。あわから でて きます。

蚊<sup>ぶん</sup>虫<sup>ちゅう</sup>も 成虫<sup>せいちゅう</sup>も 植物<sup>しょくぶつ</sup>の汁<sup>じゅう</sup>を すい<sup>い</sup>ます。ストロー<sup>すとろー</sup>の口<sup>くち</sup>です。

つかまえると たまに ちくちくと さします。

セミを 1cm くらいに 小<sup>ちい</sup>さくした

ような 形<sup>かたち</sup>を して います。

顔<sup>かお</sup>が 新<sup>しん</sup>草<sup>くさ</sup>糸<sup>いと</sup>線<sup>せん</sup>に

に いて いる 気<sup>き</sup>が します。

